

二十一世紀に向けて



滝 一郎

琵琶湖は、優れた景観を誇る我が国最大の湖で、四百万年の歴史と五十種を超える固有種を有する自然生態の宝庫であるとともに、琵琶湖・淀川流域一千四百万人の豊富で良質な水資源として、また周辺地域の優れた自然的・歴史的・文化的環境と相まって人々の貴重な憩いの空間として、重要な役割を担っております。

しかし、近年における周辺地域の土地利用や産業活動の変遷、生活様式の変化等により、琵琶湖と周辺地域を取り巻く状況は依然厳しく、水質の保全、水源のかん養および自然的環境・景観の保全等を図り、母なる琵琶湖を健全な姿で次世代に継承していく必要があります。

また、地球温暖化や酸性雨などの自然環境の急激な変化により、地球環境問題への人々の関心が高まっている今日、これまでの開発中心型の社会構造や経済発展のスタイルか

ら自然との共生を意識した社会構造、それを踏まえての社会経済の持続的な発展を求めるスタイルへと、世の中が大きく変化してきており、私たち一人一人がライフスタイルを見直すことも必要となっております。

このような中、本年四月には、常日頃、県民挙げて環境問題に取り組んでいる姿勢が認められた結果、我が国初の「G8環境サミット」が本県で開催されます。さらには、琵琶湖の総合的な保全に向けた取り組みも本格的にスタートします。「環境の世紀」と言われる二十一世紀に向かって、一步を踏み出す重要な年であります。約二十七兆五千億リットルもの水をたたえる琵琶湖を前にして、自然と人との共生を基本におき、環境を大切にしたい心豊かな暮らしを築くために、今こそ英知を結集し、夢と希望に満ちた二十一世紀への道筋を定める西暦二千年とするために、県議会も産業廃棄物問題の解決等、全力を挙げて取り組んでまいり所存であります。どうか皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、機関誌「明日の淡海」が環境を守り、自然との共生をめざす人々との良きパートナーとなるよう大いに期待しております。

(滋賀県議会議員)